

各関係機関団体の長
各病虫害防除員 殿

福岡県病虫害防除所長

平成24年度病虫害発生予察特殊報第2号について

このことについて、本県でチャノキイロアザミウマの新規系統を確認したので、病虫害発生予察特殊報第2号を発表し、送付します。

特殊報第2号

- 1 病虫害名 チャノキイロアザミウマ（新規系統）
- 2 学名 *Scirtothrips dorsalis* Hood
- 3 発生物種 マンゴー

4 発生確認の経緯

平成24年5月中旬に、久留米市城島町の施設栽培マンゴーにおいて、幼果の表面が象皮状又は鮫肌状になり褐色に変色した被害が認められた（写真1～2）。

平成24年5月24日に、被害樹より採集したチャノキイロアザミウマを独立行政法人農業・食品産業技術総合研究機構 果樹研究所に診断を依頼した結果、従来から分布していた「在来系統」とは異なる「新規系統」であることが確認された。

5 国内での発生状況

チャノキイロアザミウマの新規系統は、マンゴーでは鹿児島県、宮崎県（平成22年2月）、愛媛県（平成22年12月）、千葉県（平成23年4月）、佐賀県（平成24年2月）で確認されている。

また、マンゴー以外では、ハウスミカン（鹿児島県）、ピーマン（沖縄県、高知県）、シトウ（高知県）、トルコギキョウ（熊本県）でも確認されている。

6 形態及び被害の特徴

(1) チャノキイロアザミウマの形態（写真3）

①成虫は雌雄ともに体色が黄色で、体長は雌が約0.9mm、雄が約0.8mm。

また、背部中央に閉じた前翅が、黒く筋状に見える。

②新規系統と在来系統との区別は、外観では不可能なため、遺伝子診断法で鑑別する。

(2) マンゴーでの被害

- ・新梢では、伸長が止り、褐変・萎縮する。
- ・新葉では、葉脈あるいは葉全体が褐変し、被害が著しい場合は落葉する。
- ・葉全体が褐変した場合でも、多数の幼虫の寄生が見られる。
- ・幼果では、表面が象皮状又は鮫肌状になり、商品価値が低下する。

(3) その他作物での被害（他県報告）

国内において新規系統は、在来系統による被害が問題となっていない作物にも寄生が認められていることから、マンゴー以外の作物にも注意する必要がある。

①ピーマン、シシトウ

- ・被害葉は縮れ、被害が著しい場合、葉縁部が葉表側に巻き込みながら萎縮し、食害部はかすり状となる。
- ・生長点部分が食害されると、芯止りが発生する。
- ・果実が食害されると、灰白色にコルク化した食害痕が残り、生長と共に変形する。

②ハウスミカン

- ・果梗部にリング状の傷や、果頂部に灰褐色～茶褐色の雲形状の傷を生じる。

③トルコギキョウ

- ・花首部分のコルク化、蕾のわい化、新葉の奇形及び草丈の伸長抑制が見られる。

7 防除対策

- (1) アザミウマ類やチャノキイロアザミウマに適用のある農薬を散布する。
- (2) ハウス開口部への防虫ネットの展張や、光反射シートの設置により、侵入を防ぐ。



写真1 被害果梗部



写真2 被害幼果



写真3 チャノキイロアザミウマの成虫